

滑津のほとり

文責 佐藤元昭

85日間の2学期が終了

4月、117名の新入生を迎えスタートした平成30年度の中込中学校。振り返ってみれば、これまで様々な行事を成功させ、その度に多くの笑顔が校舎内外に溢れ、喜びに満ちた声が響き渡りました。それらの日々を創り上げてくれた生徒一人ひとり、そして、支えて下さった家庭・地域の皆様方に感謝いたします。

終業式の校長先生のお話より（抜粋）

～チャレンジとは～

そろそろ今年一年を振り返っての十大（重大）ニュースが発表されるような頃となりました。県内でもいろんな出来事がありました。その中で、清沢飛雄馬さんという名前に聞き覚えはありますか。松本市出身で、バレエをやっている人で現在17歳、若手バレエダンサーの登竜門と言われる国際バレエコンクールで最高賞を受賞した若者です。県内の明るいニュースとして話題になりました。

今月の初めに届いた教育雑誌の中に、県内のある校長先生が清沢さんにふれて書いた随想がありましたので、まず紹介します。その校長先生が、清沢さんが通っていた小学校の校長先生だったときのこと。4年生の男の子、清沢少年ですね、とお母さんが校長室に来て、「ウクライナにバレエ留学したいので、小学校を辞めさせて下さい」と言ったそうです。その少年は小学校3年生3学期に母と妹と共にウクライナへバレエレッスンに出かけ、戻ってきたばかりだったんだそうです。さらに校長先生をまっすぐに見つめて「バレエを極めたいので、一人で留学し、日本に戻ってこないつもりです」そんなふういきっぱりと小学4年生の清沢さんが言ったのだそうです。4年生がそんな大きな決断をどうしてできるんだろう、すごいことだと読んで思いました。

それから7年して、立派な賞を受賞したことを知ったその校長先生が、清沢青年を訪ねてこう聞いた。「小学校を辞めさせて下さいと言ったことを覚えていますか」「どうしてあんな大きな決断ができ、頑張ることができたのですか」と。すると清沢さんは「覚えています」「留学先ではシューズを隠されたり別な教室を教えられたりしたことがありました。でも父母の応援があったので負けられないと思いました。嫌なこともあったけど、一生懸命に踊っていると認められるようになりました。またウクライナの先生からは『日本人には上手く踊れる人が多いけれど、さらに上達しようと上手な人を見すぎて、自分のやってきたことに自信を持てなくなった人もいます。人と比べるより、自分が歩んできた道を振り返っていくことが大事です』とよく言われました。僕も、上手くなっている自分の姿を大切に頑張ってきました」。そんな風に語ったそうです。

この随想を読んで思い起こす本がありました。広中平祐という数学者、数学のノーベル賞と言われる賞を受賞した人が書いた本です。「青年の翼」にこんな一節があります。

「チャレンジとは、独自の目標に対する挑戦であり、他人との競争ではない。他人との競争意識が過熱すると、そこに気を取られ、目標そのものの達成のための精進にマイナスの力が加わる。そこに落とし穴がある。他人を意識し、自分との比較に明け暮れ、嫉妬心が強まり、批判を気にする。つまり、人間が防衛的になる。」「チャレンジは、その目標を、自分自身の中に置くものである。目標達成に全力をあげていけば、他人との比較に注意を向ける余裕もなくなるはずだ」

さて、みなさんどんなふうを感じるでしょうか。ライバルという存在が自分を高めてくれる、負けじと頑張れる、という他の人との関係性や側面もあると思います。しかし、清沢さんのバレエの先生が言ったというように、自分よりも上のレベルを見過ぎると自信をなくしてしまったり、広中さんが書いたように、他人を意識しすぎると比べることばかり気になってしまったりする、そんなことは確かにあるのではないかと思います。勉強の面でも、部活動などの面でも言えることかも知れません。

皆さんも他人との比較でなく、自分自身の今年の頑張りを振り返って欲しいと思います。頑張ったこと、もう少し頑張れたことは何か。そして、しっかりと自分の中に目標を立てて、自分自身と勝負をしていく、目標達成に向けて全力でチャレンジしていく。来る3学期、そして平成31年の皆さんの健闘をお祈りし、2学期終業の話とします。皆さん、よいお年を。

授業改善

10月18日の教育課程研究協議会、M先生が1年1組で道徳の授業を行いました。生徒たち一人ひとりが考えていることを大切に取り上げて黒板で共有しながら、時には理由を問い返したり、時にはグループに戻したりして、登場人物の共感できない部分を掘り下げていくと、「自分もそういう部分がある」と、自分の弱さに対して素直に目を向ける生徒が増えていきました。その変化が、生徒たちの考えの深まりを表していたと思います。他校から参観に来られた先生方からは、「たくさんの大人がグッと近づいて話を聞こうとしている中、グループでも全体でも真剣に語り合う姿がとても多かった」という評価をいただきました。すばらしい授業だったと思います。



11月5日の2校時、S. H先生が1年2組にて英語の研究授業を行いました。先生の紹介をするためのQ&Aを考える場面で、生徒たちはグループに分かれて積極的に相談し合い、紹介文を作っていました。最初に個人で考え、グループで相談し、わからないところは辞書で調べ、それでもわからないところは先生を呼んで質問し、しっかりした英文を作りたいという思いが伝わってきました。それと同時に、良い雰囲気での学習に向かっているなあと感じました。



11月6日の5校時、Y先生が2年2組にて理科の研究授業を行いました。ブタの肺が目前面に出てきた時、みんな触りたくなくて実験になるのかなと心配しましたが、結局ほとんどの生徒が感触を確かめながら、本来の「肺ってどうなっているんだろう？」という疑問に対して主体的に追究しようとしていました。思ったことを素直につぶやくことができるクラス、Y先生との絶妙な間合いのあるクラスに、雰囲気よさを感じました。



11月14日の学事職員会では、Y先生が1年2組にて社会科の研究授業を行いました。授業の中で、Y先生の友人”Sさん”の生の声が飛び出し、静かに見入っている生徒の姿から、資料の価値の高さを感じられました。その他にもたくさんの資料や写真が提示され、授業が始まるまでの準備の大切さについて感想用紙に書かれた先生が何人もいました。

同じく、学事職員会の日に、M先生が1年3組にて美術の研究授業を行いました。雲からイメージを広げるという新しい発想に、生徒たちも楽しそうに取り組んでいました。雲から見えた動物などをそのまま描き出す生徒もいれば、構想の元になった最初の写真からは想像できないほど変化している生徒もいました。また、教科書や参考書を見て参考にしたり、4人グループで机を合わせた友達と相談したりと、カタチの構想を伸び伸びとした動きの中で練っている姿が印象的でした。

2学期は授業改善の学期でもありました。職員は本気になって研究し合い、授業改善に取り組みました。最初に挙げた「教育課程研究協議会」では、「裏庭での出来事」という資料を使った授業でしたが、1年1組以外にも7学級が同じ資料を使って授業を見合い、研究を深めました。その結果がM先生の本番の授業につながりました。気がつけば、2学期になんと12もの授業をお互いに見合っていました。近年の学校教育は、質問されたことにパッと答えられるよう暗記するようなスタイルから、答えの無いような問題を追究する方向に変化しつつあります。まさに、先生方の授業も、「このやり方です」という形は無く、どうやったらいいのか追究し続けていかなければなりません。その部分に労を惜しまずこれからも追究を続けたいと思います。

学校保健委員会

10月23日には学校保健委員会「睡眠講座」があり、上諏訪病院院長 亀井雄一先生が来校して、睡眠について1時間の講演をしていただきました。冒頭から、「この生物は睡眠を取るのか」という質問に、「ナマコやカブトムシ、クラゲなども寝るのかな？」と思わず吸い寄せられました。「眠らないと〇〇〇になる」に言葉を入れる質問をされると、自分ではなかなか答えが見つからなかったのですが、①病気 ②太る ③うつ秒 ④免疫力低下 ⑤かぜをひきやすい⑥昼間に眠くなる ⑦イライラ ⑧記憶力の低下 ⑨空気が読めなくなる ⑩睡眠不足症候群 ⑪時差ぼけ と、デメリットがたくさんあることを教えてくれました。また、光（スマホやテレビ、コンビニの光など）との関係、食事との関係、学習との関係についてもたっぷり説明していただきました。講演を聞



いて、今回の講演から、生徒たちは睡眠の大切さを感じ取ってくれたと思います。生活の利便性や楽しさに偏りがちですが、時々この講話の内容を思い出し、よりよい生活リズムを考える機会が増えたらと思います。

インターネットフォーラム

10月28日、佐久大学にて「青少年インターネット適正利用推進フォーラム」が開かれました。総合テスト前日でしたが、学友会正副会長の3名が中込中学校の代表として参加してくれました。会の中で、中込中学校のメディアに関する取り組みについて、発表してくれました。私自身その発表を聞きながら、テスト前に生徒集会を開き、全校で意見を出し合ってノーメディアデーに向けて意識を高める取り組みは素晴らしいなあと改めて感じました。会の後半に行われたパネルディスカッションにもパネラーとして参加し、メディアの専門家3名と意見交換をしてくれました。「メディアの利用によって、自分のやるべき事がないがしろになり、振り回されるようなことがあってはいけない」というのが3名の共通点だったと思います。中学生としてメディアに真剣に向き合っている意見を発表してくれて、佐久市教育長さんをはじめとした多くの来場者から大絶賛されていました。

放課後学習

10月31日、3年生の希望者による放課後学習がスタートしました。水曜日の放課後の1時間、学習内容を自分で決めて自習を行います。そこに、地域からボランティアとして6名の方が来校し、生徒たちが自習しているところを回って歩き、生徒からの質問に答えてくれたり、困っているような生徒に声をかけてくれたりしています。当初の希望者は30名で、常時15名程度の生徒が参加しています。右の写真は第1回目の学習風景です。生徒たちは、自分たちでも教え合ったりして学習を進めています。後期選抜の直前まで全14回の予定ですが、地域の方々の支えがあって実現している取り組みに感謝し、受検に向けて良いはずみとなることを期待しています。



モンゴル国研修生との交流

11月6日、モンゴルから8名の研修生が来ました。最初に校舎を見学してもらいましたが、体育館がとてもいい建物だと感心していました。2時間目と3時間目は、1学年4クラスの授業に研修生が2名ずつ分かれて参加しました。習字をやったり、グラフの学習をしたりと、それぞれのクラスで真剣に体験していました。授業の中で絵を描いて見せ合ったり、習字の準備等の手順をサポートしたり、移動する際にジェスチャーで合図したりと、言葉以外の方法でコミュニケーションを取る姿には優しさがあふれていました。昼食後、オープンスペースで1学年合唱を聴いてもらいました。通訳さんが「ホントにすごかったです！みんな、今まで聞いたことがないと言っている。」と、通訳さん自身も少し驚きながら褒めてくださいました。最後は1学年全員が外に出て駐車場で旗を振って見送りました。来校された研修生の皆さんは、満足した笑顔で何度もお礼を言いながら（少し名残惜しそうに）帰って行かれました。

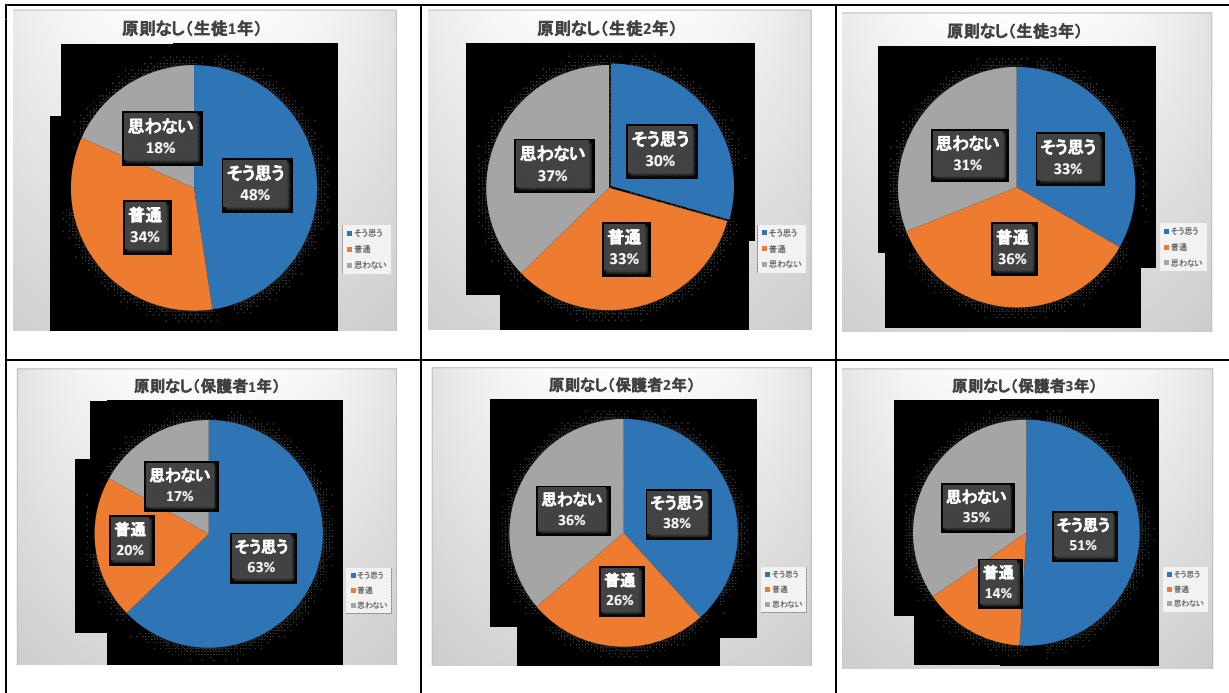


部活動運営委員会

11月19日に部活動運営委員会を開催しました。各部活動の保護者代表、外部コーチ、部活顧問というメンバーで、4月から11月までの部活動の振り返りと、冬期の部活動について話し合いました。事前に取りらせていただいた部活動アンケートから、原則朝部活無しとしたことについて、以下のような結果が出てきました。

- ・朝部活動をやめたことで、「朝の時間に余裕ができた」と感じる生徒・保護者・職員が多い。
- ・「朝食をこれまでよりしっかりと食べてこられるようになった」と感じる生徒は4割を超えている。
- ・生徒の「授業中の集中力」を感じるのは職員が多く約4割。「家庭学習時間の増加」を感じるのは生徒が最も多く約3割いる。

- ・「疲労回復」を感じる生徒は3割ほどで、朝部活なしが、十分な疲労回復に結びついていない。
- ・「生活のリズムが崩れた」と感じる生徒・保護者は2割に満たない。



- ・生徒・保護者とも「原則なし」でよいとする回答が最も多いのが1年生、次いで3年生、2年生となっている。2年生の生徒は「原則なし」にそう思わないと回答する割合が最も多い。2年生にとっては、現在行われている新人戦や、来年度の夏季大会に向けて、活動を十分行いたいという実感をもっているためと考える。
 - ・保護者はいずれの学年も「原則なし」でよいとする割合が最も多くなっている。
 - ・トータルすると、今後も「朝部活動は原則なしでよい」と回答する割合が生徒・保護者・職員で最も多かった。
- ◎今後も県や市の方針に沿い原則朝部活無しでいきますが、今回のような検証を行うことも大変重要であると感じました。アンケートへのご協力ありがとうございました。
- ◎冬期の部活動についても朝部活は無しですが、今年度は年間計画の中で12月～1月に5時間授業の日を計画的に設けることや、懇談会・各種検定などを含めると、月の半分は放課後1～2時間の活動が可能となり、ある程度の活動時間が確保できます。実際に活動するかどうかは、生徒・顧問・保護者で相談の上決定となります。
- ◎外で活動する部活が冬期にグラウンドやテニスコートが使えなくなるので、体育館を使わせてほしいというご意見が出されました。室内の部活動と協議の上、屋外の部活動も体育館を利用できるよう顧問会を開いて検討しました。必要に応じてバランスをみながら対応していきます。

連絡

12月20日、近隣にお住まいの女性から電話がありました。①生徒の送迎のため、たばたクリニック周辺で降ろしてUターンをする場所が小学生の集団登校の集合場所で危ないこと、②樋村橋方面から来て、学校南側校門付近で車を降り、パッと道路を渡ろうとして、学び橋の方から来た車とぶつかりそうになることの2点を指摘されました。①細い路地での乗り降りや車のUターンは危険であること、②車から降りた直後に左右を確認することを学級で指導しました。また、原則朝部活なしで、登校時間も遅くなっているの、時間にゆとりもあると思います。できる限り決められた通学方法で登校することも話しています。ご家庭におかれましても、安全な通学へのご理解・ご協力をお願い致します。

年明けは1月8日からのスタートとなります。生徒の皆さんが元気に登校してくれるのを待っています。

～ 皆様、良いお年をお迎え下さい ～



